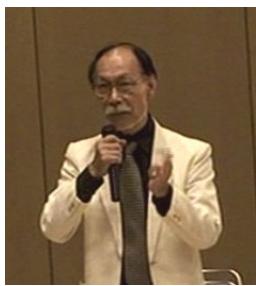


★審査員から一言講評の様子（座席順）



川口裕志氏



木下そんき氏



虞錫安氏



桑山哲也氏（特別）



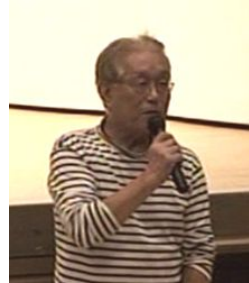
青山義久氏



西尾 正氏



山岡秀明氏



松永勇次氏



写真左：柴崎和圭氏



写真右：中山英雄氏

時間が押していた事もあり今年度は、各審査員から全体の感想並びに講評をいただきました。

\*\*\*\*\*

《講評の中から》

□粒ぞろいだった

特別に抜き出たものは見当たらなかった、全体として粒ぞろいだった。

□大事なのは楽しむこと

自分がコンクールに出たときの気持ちを思い出した。コンクールというのは、この日、この場での評価です。よく“家でよく弾けていたのに”とか、“自宅でもっと練習しておけばよかったのに”と思う方がいると思いますが、大事なのは楽しむこと。

ベテランの方々に見られるのは、笑顔で弾いている。演奏しているときに仲間同士で目配せして楽しい演奏をしている。そういう姿を見ると楽器を通じて皆で一つになっていくことがすごく大切なことなんだと思います。

僕が子どものときよりも若い方のプレーヤーが増えてきています。ボタンアコーディオンを弾いている方が何名かいました。ぼくがボタンアコーディオンを始めるときには、本当に少なかったんです。ピアノ鍵盤式、ボタンアコーディオン式、そのアコーディオンの違いとかジャンルを全て通り越して音楽好き、アコーディオン仲間という形で今日は皆さん楽しく出来たのではないかと思います。

いろんなグループの方達が出ています。いろんな地域の方達がそれぞれで練習なさって今日集まってきました。せっかくのこういう演奏交流会ですから、今後よきライバル、一緒にコンクールに出たライバルの発表会とか積極的に聴きに行くことによって吸収することってすごく多いと思います。

それぞれの演奏を聴いて、聴くべきところは吸収し、

ここはこうだなと思うところはけんかにならない程度にアドヴァイスする。そして、時にはプロの演奏を聴くということもとても大切なことです。

審査という形で点数を付けさせていただきましたが、本当に皆さん素晴らしい演奏だったと思います。

### □アンサンブル部門を充実させたい

他の楽器とのアンサンブル部門を充実させたいと常々思っています。中学、高校でトロンボーン、クラリネット、トランペット、ユーホニウム、打楽器などでコンクールを目指して練習しているから、彼らは3年、4年と鍛えると相当力をつけている。

ところが、卒業して社会に出ると練習場所の問題、時間の問題などで演奏が出来なくなっている。そんな人材とつながりが持てればアンサンブルの可能性が出てくるのではないかな。

### □丁寧に弾いていると感じた

それぞれの団体が丁寧に弾いているなど感じました。その上で、編曲や作曲の中のねらいとかフレーズの対象が、ちょっと客観的に弾いてみるっていうことがもうちょっとあると、メリハリだとかもっと光るのになあと思う団体もいくつかあった。お互いに弾きあって吸収してきた結果が皆さんの演奏になってきていると思う。

### □演出って言う点を感じ勉強になりました

今回新しく感じたことを2~3織り交ぜてお話しします。今回嬉しく感じたのは、ベテランのグループ、いくつか覚えがあります。ベテランのグループの数が増えているように思いました。それが、演奏の実力、それとアコーディオンに対する技術をすごく感じています。

そのおかげで、今までは何か演奏という感じが強かったんですが、今日は演出って言う点を感じました。学ぶべき点だと思いました。

3点目は同じ顔の出演者が違う曲を演奏されていること、これはすごくいいことと感じているのと、その方々、出演者のアコに対する熱意に僕は学ぶべきことだと感動しています。

最後に、一つ印象に強かったのは、高齢の方の演奏、僕もこれから頑張らなくちゃと思いました。

### □音楽を通して豊かな人間の心を育てる

JAAのコンクール、銀座音楽祭、無事両方成功いたしました、ご協力ありがとうございました。そこで

御喜美江先生がおっしゃっていましたがみんなが勝利者だということです。

こういう中で音楽をやっていくことは素晴らしいなと思います。こういうつながりというのはJAAとしても大事にしていきたいなと思います。

一つ胸に詰ったのはアコーディオンの先生で、清村杜夫先生と石井庸介先生(お二人とも今年亡くなられた)が編曲されている曲を演奏されているときちよつとゾーンと来ました。その想いみたいなものを感じました。我々も音楽を通して豊かな文科学的な人間の心を育てていけるといいなと感じました。

もう一つ、アンサンブルのところで残念ながら時間オーバーがありました。又、“耳コピー”というのは、これはミュージックでは必要なことですが、関東でもこれからどういふふうと考えていくかというのが課題になったのではないかとおもいました。是非若い人も参加しやすい形を探っていくといいのではないかと思います。

### □身体全体で音をつくるってとても大事

全体的に、アコーディオンを楽しむってことがすごく出来たかなと思います。

小アンサンブルのことで話しますと、先程川口先生が言われた通りアコーディオンという楽器の未来を考えると、他の楽器とアンサンブルするというのがすごく大事なんですね。又、正規の楽譜で演奏することもすごく大事なんです。それは、音楽をどう理解し、楽譜をどう理解し、それを音にどう出していくかというのはとても難しいことです。

また、即興ですよ、自分たちでつくっていく、これはなかなか簡単そうで意外と難しいことなんです。いろいろな経験がないといい即興って出来ないんですね。いろんな曲を弾いていろんな経験をされて、あつ、このフレーズここで合うな、ここで出せるなっていうのは経験があればあるほどいいはずですよ。そういう意味で今日聴いていていい方向性が出てきているなど感じました。

後一つ、皆さん楽器を持つ、演奏するとき楽譜とにらめっこして身体が固まっちゃっている人が多いんです。勿論左手は動かしているんですけど、身体の方が動いていないんです。

アコーディオンっていうのは左手指も動かします、ひじも動かします、右手、指も動かします。でもそれはひじから先のどこしか動かしていないんですね。その指を指令するのは指元、手首からひじ、ひじから肩、

肩から本体、本体から脳みそへと中枢に来ているんです。その中枢を動かさない限りいい音ってつくれないんですね。だから、皆さん腕だけにしないで身体全体で音をつくるってすごく大事です。

例えば、上位に入っている方達っていうのは、もちろん音楽を理解してきれいに弾いて、アンサンブルって何かを素晴らしく理解しているんですけども、音の出し方一つでも、ひとつ音を出すときに前に出る。前に出れば胸の付近が広がってジャバラを広げるときにすごく役に立つし、どういう音をイメージしていくかっていうことが伝わるんですね。

上手い演奏者のビデオをお持ちでしたら早送りで見てください。ものすごく、支離滅裂で動き出します。足をばたばたさせたり、早送りで見るとおかしいんですけども、それ位身体を動かし、身体で音をつくっているんですね。ですから、是非楽器を身体で、心に密着しているので身体と同じように動かしてあげるとも

つといい音づくりが出来るんじゃないかなと思います。

#### □日本は文化芸術に対して非常に冷たい

ロシアでは、アコーディオンを含めた楽器と歌とダンスとこの三つのものが完全に一体となって楽しまれているんです。日本でも歌と楽器とダンスそういうものが一体となった楽しみ方が出来るといいなと思います。

もう一つ、私達の身の回りには戸籍はあるんだけども何処にいるのかわからないという高齢者が何十万人もいるという。文化、芸術に携わる人間としてはこういう社会状況って言うのは本当に許せない。安心して暮らせる社会状況であってこそ文化芸術が栄えるわけですから、そういう社会をつくるってということ、私達のアコーディオンを向上させるという努力と合わせてお互い努力したいものだと思っております。

### ~~~~~ 打ち上げのスナップ ~~~~~



特別審査員桑山哲也氏を囲んで



山形県から出場したお二人「月のカケラ」の演奏



会場の様子



華麗な指捌きで打ち上げを盛り上げてくださった帏トンボ楽器製作所真野社長の演奏↑